

総務委員会速記録

平成30年12月19日（水曜日）午前9時開会

出席委員（7名）

委員長	一木重夫君	副委員長	清水良一君
委員	池田望君	委員	稲垣勇君
委員	杉田一男君	委員	鯉江満君
委員	安藤重行君		

出席説明員

村長	森下一男君	副村長	渋谷正昭君
教育長	松本隆君	総務課長	セーボレー孝君
総務課副参事	杉本重治君	総務課企画政策室長	樋口博君
財政課長	江尻康弘君	村民課長	村井達人君
医療課長	佐々木英樹君	産業観光課長	牛島康博君
環境課長	岡島一徳君	建設水道課長	繁藝則仁君
建設水道課副参事	岩本弘幸君	母島支所長	湯村義夫君
教育課長	持田憲一君		

事務局職員出席者

事務局長	大津源君	書記	萩原佳代君
------	------	----	-------

議事日程

- 日程第1 小笠原諸島返還50周年記念事業について
- 日程第2 小笠原諸島世界自然遺産について（継続）
- 日程第3 その他
- 日程第4 閉会中の継続調査について

◎開会の宣告

○委員長（一木重夫君） ただいまから総務委員会を開会します。

出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午前9時）

◎会議時間の延長

○委員長（一木重夫君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。

◎説明員の出欠について

○委員長（一木重夫君） 次に、説明員の出欠について事務局長に報告させます。

○事務局長（大津 源君） ご報告いたします。

本日の委員会の説明員は、全員が出席との通知がありました。

以上です。

◎小笠原諸島返還50周年記念事業について

○委員長（一木重夫君） それでは、本日の議題に入ります。

日程第1、小笠原諸島返還50周年記念事業について、執行部から報告を求めます。

総務課副参事、杉本君。

○総務課副参事（杉本重治君） ご説明させていただきます。前委員会以降の事業についてご報告を申し上げます。

資料の1枚目をご覧ください。

まず主催事業等といたしまして、9月29日に東京の竹芝客船ターミナル周辺におきまして Bonin Bon-Odori Festa～竹芝で！盆踊りだヨ！全員集合！！～というイベントを実施しております。

次に、10月7日、8日の2日間、父島と母島におきまして文化歴史交流祭を実施しております。

次に、父島におきまして、おいし～ま小笠原、料理レシピコンテストの選考、発表等を実施しております。

次に10月21日、こちらは主会場は父島でございますが、母島と東京都も結びまして、明

日を考えるシンポジウムを実施いたしております。

次に、同じく10月26日から28日にかけて、父島と母島におきまして、 O g a s a w a r a M u s i c F e s t i v a l を実施いたしております。

次に11月11日、こちらは村の主催事業になりますが、母島におきましてハハモリプロジェクトを実施いたしております。

次に12月9日、こちらも村主催事業となりますが、父島におきましてオガグワの森プロジェクトを実施いたしております。

続きまして協賛事業につきましては、12月15日、父母交流スポーツ大会を父島において実施されております。

次に広報につきましては、実行委員会の広報誌を9月16日と11月8日、2回にわたりまして発行しております。

次のページをご覧くださいと思います。

こちらは東京都によります返還50周年関連のPR活動の報告となります。

まず1点目がPR動画の掲出としまして、1つは渋谷スクランブル交差点、こちらに4面のビジョンがあるのですが、こちらを連動させた4面連動マルチビジョンPR事業としまして、12月1日から30日までの約1か月間にわたりまして小笠原のPR動画の掲出を行っていただいております。

2点目がJR駅のデジタルサイネージ、こちらは電子看板とも呼ばれるものですが、東京駅と品川駅にごさいますデジタルサイネージにおきまして、12月1日から31日までの1か月間、こちらにも小笠原のPR動画の掲出を行っていただいているところがございます。

3点目が動画ポータルサイトY o u t u b e、東京都の公式動画チャンネルでございますが、こちらにつきましては6月29日から引き続き年内いっぱい小笠原のPR動画の掲出を行っていただいております。

次のページをご覧ください。

同じく東京都におきましてPR事業でございますが、JR東日本の山手線、中央線の快速、埼京線それぞれの路線、各2編成におきまして小笠原PRの車体広告を実施していただいております。こちらの広告期間は12月2日から30日ということで、こちらもほぼ1か月の掲出を行っていただいております。

次に東京都におけます今後のPR事業の予定でございますが、小笠原諸島PR大使「さ

かなクン」の参加によりますイベントを、来年の2月から3月にかけてすみだ水族館において実施をするということで伺っております。

報告については以上ですが、1年間に渡りまして各事業に議会の皆様の多大なご協力をいただいたことに感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 最初のこの返還50年記念事業のところの、竹芝で行われた盆踊り大会、これについてちょっとお聞きします。たまたま議会も上京中でしたので、全員参加させていただいて、私たちも実際その場の雰囲気味わったんですけども、霧雨が降る中大勢の方に集まっていたいて、予想以上の盛況だったと私は思います。特に東京都だとか、前に小笠原に居住していた人とか、旧友邂逅の場でもあったような気もします。それで、東京都内でもありますし、周りには商業地域としてホテルなんかも建っていますよね。まず、あれを開催するにあたって周辺住民への周知を徹底したか、どういう周知をしたのか。また周辺住民からこのことに関してどういうものなのか、反応みたいなものがあったのかをお聞きします。

○委員長（一木重夫君） 総務課副参事、杉本君。

○総務課副参事（杉本重治君） すみません、私直接参加はしていないので、参加したスタッフから聞いた内容でのご報告になりますが、やはり周辺には住居ですとか、オフィスですとか密集した条件で、島でやるイベントとはかなり状況が違うということは従前からこちらとしても十分配慮しておりまして、イベント実施前に周辺の事務所ですとか住居に、個別にこういうイベントを実施しますというお知らせと、多少の騒音とか音が出ます、人の出入りがありますとか、そういうご案内を申し上げまして、またあわせてイベントの方に参加していただけるように、割引のチケットのようなものをお配りして、ご協力をお願いしたということを伺っております。実際の苦情とかそういうのがあったかというのは、私の耳には届いておりませんので、おそらくなかったのではないかという理解をしております。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） なぜ聞いたかという、この開催にあたって、開催後に多くの参加者から、いい意味で小笠原を違った視点からPRできるんじゃないか、そういうことで、今

年1回で終わるんじゃないなくて、毎年じゃなくても、隔年でもいいから、ぜひまた何か開催の方向で考えてもらえないだろうか。そして竹芝周辺は今再整備計画がどんどん進んで、浜松町とかそういうところからさらに来やすくなる、そういった中で周りのホテルにとってもなかなかいい雰囲気になるのではないかという気がしました。そういう意味で、この開催を通して周辺住民の感触とか、参加してくれた人、特に東京都のOBの方が数多く来られたので、そういう所に対しての意識調査だとか、そういう部分をひっくるめてぜひ総括していただいて、これが次につながっていくのがいいのかどうか、そういう部分も含めて検討していただけないかと。確かにこれ予算がかかることなので、その辺もどういふふうに協力をお願いするかという部分も出てくると思うんですけど、せっかく東京には小笠原村の観光局もありますので、そういう部分ももう少し活用しながらひとつ前向きに検討していただけないかと、こう思いますけれどもいかがですか。

○委員長（一木重夫君） 総務課副参事、杉本君。

○総務課副参事（杉本重治君） すみません、返還50周年担当ということで、責任持ったお答えがしにくくて大変恐縮なんですけれども、返還50周年のイベントとして特出しということで今回内地の方で盆踊りを開催したわけでございますが、これとは別に杉田委員がおっしゃったように、観光局を中心にしまして竹芝でも毎年小笠原Dayというイベントを実施しておりますので、その辺を絡めてどういうことができるのかというのは担当課の方とも話をしていきたいと思っております。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 同じことを村長にもお聞きしたいんですけれども、たまたま同時期に有楽町で伊豆七島小笠原の、「東京愛らんどフェア2018」フェアが行われていました。場所が有楽町と竹芝ということでそんなに離れていないんですけれども、場所的にとか、キャンペーンの部分を見るとなかなか有楽町は難しいなと、そういう部分もひっくるめてこれを起点にして、ぜひいい方向につなげていくような考えをしていただきたいなと思うんですけれども、その辺について村長も参加した一人としてどうでしょう。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） まず杉田委員からのお話がありましたように、この盆踊りが終わった後、多くの方からぜひ続けてほしいという声を多くいただいたことは事実でございます。この盆踊りをやるにあたって、観光局には本当に獅子奮迅の活躍をしていただきました。と言いますのは、まず日程調整から始まるんですが、ご案内のとおり、東京湾の東海汽船

がクルーズをやっている夏の間は本当に会場が使いづらいということがあり、時期の設定、それからこの日も伊豆七島航路は入出港をしておりまして。ですから、あの部分を我々が広く使うということにおいて、伊豆七島から帰ってきたお客様、その後乗るお客様の動線、委員もお気づきになったと思いますが、東海汽船と入念な打ち合わせをする。また、委員からもお話がありましたが、あの部分を改修するということが決まっております。そうするとあの広場が今までどおり使えるかどうかとか、そういうこともございますので、皆さんの熱い想いは素直に受け止めましたが、ざっと私の頭の中で考えても、会場はどうするかとか、毎年の開催は厳しいものがあるなあというふうに思ったのでございますが、伊豆七島小笠原で単独でああいうイベントをやったのは今回が初めてということで、対外的なところから、大変な評価もいただいておりますので、担当課も含め、観光局も含め、それから関連の相談しなくてはいけないところ、東海汽船とかありますけれど、ああいうものが開催できないかどうかということは前向きに庁内でも議論をしていきたいと、このように思っているところでございます。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） 今年のこの返還50周年、本当に素晴らしい色々なイベントがあり、天候にも恵まれて本当に実りのある年であったと思います。そして村長はじめ、執行部の皆様本当に大変だったと思います。ありがとうございました。今回振り返りみたいな形で返還50周年の事務局から報告があったので、ちょっと聞きたいんですけども、このPR、東京都のPR動画と渋谷のスクランブル、JR、動画ポータルサイトと12月からやるということですけど、これ大体いくらくらいかかるんでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 総務課副参事、杉本君。

○総務課副参事（杉本重治君） 正確な発注金額についてはお伺いしていませんが、JRの車体広告で1ヶ月とか、そういう単位になりますと、少なくとも1千万単位の予算がかかるというふうに考えております。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） あとでも結構なのですけれども、こういうPRというのは非常にタイムリーに効くのではないかと考えていて、本来なら返還50周年の初めの方にこういうことをやるのかなと思ったのですが、最後にやるっていうのも非常に感慨深い、おそらく返還50周年でかなりのマスコミ、テレビの放映率とかそういったことでたくさんの観光客

が来すぎてしまうということもあるかと思います。今年は本当に観光客の方もたくさん来ていただいたので、返還50周年のイベントが終わると、これからどちらかというと収束気味になっていくんじゃないかという所でこれをやるっていうのは、なかなか意味があるなと思います。ただ、12月30日で終わってしまうのもなにか惜しいなっていう気もします。これから小笠原がどういうふうになっていくのかわからないですが、予算が付くのであればそういうタイムリーな広告を今後も考えていただけたら非常にいいのではないかと思います。まあ予算にもよりますが。

それと、色々なイベントは終わりました。そして色々な映像が撮られていると思うんですが、この返還50周年記念事業を、11チャンネルのケーブルテレビでうまく活用できないかということで、何度か質問させてもらったんですが、皆さん主催者側で一生懸命やっていたんで自分のあれが見れなかったんじゃないかと思うので、これからその振り返りみたいな形で島民自体が味わえるような、その辺の放映の計画とかそういうのは今後あるのでしょうか。ちょっとお聞きしたい。

○委員長（一木重夫君） 副村長、渋谷正昭君。

○副村長（渋谷正昭君） 私が把握しているのは、「明日を考えるシンポジウム」まで、つい先日放送が終わったと思います。今担当者から聞いておりますのは、島内で編集、撮影をやった業者は限られているものですから、編集作業が追い付かない。次に、ここには無いですが、神社のお祭りの相撲大会、芸能大会、その前にミュージックフェスティバル、まだ放送し切れていないものを順次準備でき次第放送するというで聞いております。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） そういったものを随時放映していただきたい。放映時間がいっぱい出せないというのであれば仕方がないんですけども、11チャンネルを見ると、画面がほとんど動いていない状態なので、余裕があると思います。同じものでもいいので、どんどん何度でもやっていただければ。やっぱり見過ごしてしまう方もいるので、放映していただければと思います。ありがとうございます。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

池田 望委員。

○委員（池田 望君） 長い1年間を村役場の皆さん大変頑張ってくれたなど、私の方は大変評価しています。ありがとうございました。そういう事業にもいくつか参加させていただきましたが、村長に、全体として総括した考えをお聞かせいただきたいなと思います。歴史

に学び、先人たちのご苦勞を知り、またこれからの未来につなげていくという大きなテーマでこの返還50周年記念事業をやってきたと思いますが、村長の評価、総括を頂ければありがたいと思います。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下一男君。

○村長（森下一男君） この返還50周年記念事業を様々やるにあたって、私は何度も過去の歴史を振り返り、今を見つめ、明日の小笠原を考える、村民の皆さんと一緒に考える機会にしたいということを申し上げてまいりました。また今回の返還50周年のキャッチフレーズが「夢受け継いで50年 未来へ羽ばたけ小笠原」ですね、こういうことを掲げながら皆様から疑問の声もいただきましたが、3年前から早めに実行委員会を作り、様々な主催事業、村民の皆様の自主事業、そういうことで行っておりまして、まずそういう基本的な考え方は実現できたのではないかなと思います。

文化歴史もありましたが、今回の中で特に私印象的だったのは11月21日に3元中継で行いました、明日を考えるシンポジウムなんです。返還当初を知る年配の方のご意見、それから小笠原で学び巣立ったOG、OB、そして現在学んでいる中の代表として高校生が、小笠原の良さ、それからこれからの小笠原はどうあってほしいかというような色々な意見が出たんですけれども、冒頭申し上げましたようにこの返還50周年をどういう位置づけでやるか、ということについての答えがそこにあったような気がしております。テレビ中継がこの後あると思いますので、ぜひ議員の皆様にも見ていただきたいのですが、それぞれ村民の皆様、子どもたち、素直な意見が出ていました。

ご質問の、どういう総括をしているかということでございますが、皆様のご協力もあって成功をしたというふうに思っております。これを今後どう活かしていくのか、これは、皆様とともにまた考えていきたい、こう思っておるところでございます。各関係機関本当に大変ご協力をいただきまして、この議会が終わりましたら、私20日の便で上京してまいります。年末のご挨拶とそのお礼のご挨拶をしてまいりたいと思っております。

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎小笠原諸島世界自然遺産について（継続）

○委員長（一木重夫君） 続きまして日程第2、小笠原諸島世界自然遺産について、執行部から報告を求めます。

環境課長、岡島君。

○環境課長（岡島一徳君） 小笠原諸島世界自然遺産について継続のご報告を申し上げます。

まず1番目、主な会議等のスケジュールでございます。前回の委員会以降の開催経過でございますが、まず9月18日に第1回地域連絡会議がございました。また9月27日には第2回愛玩動物ワーキング、こちら地域連絡会議の下部ワーキングでございます。10月31日、第3回愛玩動物ワーキング、そして11月1日には、第1回小笠原諸島森林生態系保護地域部会、こちらは林野庁の検討部会ということになっております。また11月15日、第4回愛玩動物ワーキングということで、こちらは、現在検討を進めております新たなペット条例ということで、この会議をもちましてまとめの方を行ったところでございます。次に11月21日ですが、小笠原希少植物保護増殖事業検討会ということで、こちらは種の保存法に基づく国内希少野生動植物種の保護増殖事業について、環境省の方で検討を行っているものでございます。次に12月3日、南島の自然環境モニタリング検討会、こちらは東京都の検討会でございます。12月5日、アカガシラカラスバト保護増殖事業検討会、こちらは環境省の検討会でございます。また昨日ですけれども科学委員会がございまして、世界自然遺産の決議事項に関する取組状況について各機関から報告がございまして、その評価をいただいたところでございます。またこちらでこれまで委員長を務められておりました、大河内委員長がご勇退されまして、新たに首都大学の可知先生が委員長ということになりました。

今後ですけれども、1月28日に第2回地域連絡会議を予定しております。

2番の主な小笠原諸島世界自然遺産管理の状況でございます。今回は第1回地域連絡会議の主な意見についてご報告を申し上げます。まずオニヒトデ対策でございます。小笠原諸島では、これまでにオニヒトデを見かけることはめったになかったのですが、二見港で多数確認されたということが報告されました。行政と地域が一緒になって取り組むべき課題であり、早急に対策を進める必要がある、という意見がございました。それに対し環境省からモニタリングや駆除を実施し、自主事業も推奨していく、という回答がございました。

次に有人島でのネズミ対策でございます。有人島から無人島への人の移動もあるため、

有人島のネズミ対策は重要である。また根絶は難しいかもしれないが、低減化で終わってしまえばいずれまた増えてしまう可能性がある。次にネズミ対策は集落・農地だけではなく、有人島の単位で対策を検討すべきである。また有人島のネズミ対策に関する成果目標などを立てた上で、各機関、地域参画団体がそれぞれできることについて、協議する必要がある。そういったご意見がございました。こちらにつきましては私の方から行政連絡会で検討する予定だということでご回答を申し上げます。

次に希少種保全のためのノネコ対策でございます。母島の集落では、現在すでに高頻度でノネコが確認されており、不安であるといったご意見がございました。また母島のノネコは予算や技術面での課題がありまして、急激に捕獲を進めることはできないが、保全対象種の状態をモニタリングしておくことは重要だというご意見がございました。

次に予算や技術面で課題があるのであれば、殺処分という方法も考えなくてはならないのではないか。そういったご意見もございました。それに対してですけれども、小笠原におけるノネコ対策につきましては、これまで様々な背景や経緯がございまして、殺処分をしないという前提の下に進めてきました。こうした背景や経緯を踏まえながら、情報の共有、議論を続けていってほしいと、こちら村長の発言になりますけれども、そういった議論が交わされました。これに対しまして環境省からですけれども、父島では一度低密度化しているため、ここで分散させずに完全排除を目指していきたい。母島におきましては希少鳥類が確認されている場所を中心に捕獲の実施を進めていく。父島の状況を踏まえながら、さらなる捕獲範囲を拡充していきたいと、そういったご意見がございました。

次に母島での世界遺産センターについてです。なかなか進まない状況があるという中でのご意見ですけれども、様々な課題や障壁があるのであれば、課題の具体的内容や解決方針を示してほしい。これ以上「検討中」と言われるのは限界であると、そういったご意見がございました。それにつきましては林野庁の方から、ここ2、3年のうちに方向性は提示できるようにしたいといった回答がございました。

その他の意見ですけれども、まず地域連絡会議については、管理機関の取り組みについて報告、連絡調整を図る場として必要であるが、加えて地域の課題解決の場となるよう、要綱の書き換えをお願いしたい。具体的に困っている状況をみんなで共有して、地域の知恵で課題解決の方策を探るといった議論の方向性にできれば良いのではないかと。そういったご意見がございました。

また環境省の方から西之島に関する検討状況の報告がございまして、それに対する意見

ですけれども、西之島については、東京都や小笠原村、地域との調整が必要である。西之島に関する検討委員会では、単に法的な整理をするだけでなく、管理の運用を見据えた検討を進めていくべきである。また「科学的価値」の整理より前に「社会的価値」の整理も重要であるといったご意見がございました。

最後に近年アフリカマイマイが増えているといったご意見がございまして、対策を検討すべきである。一度低減化したにもかかわらず、再増殖しており、脅威を感じていると、そういったご意見がございました。以上主なご意見ですけれども詳細につきましては、小笠原自然情報センターのホームページがございまして、そちらでご覧いただけるようになっております。

次に、(2) オガグワの森プロジェクト等の植樹イベントについてということで、さきほどの小笠原諸島返還50周年記念イベントの報告の一部でもご紹介がございましたが、今回小笠原諸島返還50周年を契機に、父島母島におきまして、オガサワラグワ等の植樹を始めとした村民参加型のイベントにより、小笠原の自然を身近に感じられる場を住民の方と協働でつくることを目的に実施したものでございます。昨年度から、今回の植樹イベントまでに苗木の育成ですとか、イベントにおきまして植栽箇所におけるアカギやギンネムなどの外来種の伐採、また近自然工法による階段づくりなどを実施してきました。父島につきましては森の名前をオガグワの森と決めまして、12月9日、参加者は全部で94人来ていただきまして、オガサワラグワを68本植樹していただきました。

また母島におきましては、11月11日、参加者は30人、こちらについては母島の森。オガサワラグワだけではなくて、ヒメツバキですとかテリハボクといった在来種もありまして、全部で37株を植えてございます。オガグワの森、母島の森、ともに多くの方にご参加いただきまして、特に小さなお子さんにもたくさん出席していただきまして概ね好評の方をいただいております。今後もこれで終わりではなくてイベントの方は引き続き実施していきましてオガサワラグワという村のシンボルツリーとして立派な森を作っていきたいというふうに考えております。

以上になります。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） どうもありがとうございます。環境課の課長、大変だと思います

が、ちょっと聞きたいことがあって質問させていただきます。トコジラミというのが今騒がれています。これも外来種で入ってきてしまったということですが、これに対して環境省も含めて環境課としてどんなふうな見解でいるのか、どういう対処をしているのかお聞かせください。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、岡島君。

○環境課長（岡島一徳君） トコジラミにつきましては、船内また島内に入ってきたということとは承知をしています。実際それに対する対応につきましては村の環境課の方では特に実施をしておりません。問題であることは認識しているんですけども、どう対応していくのかというのはなかなかちょっと難しいところかなと思いますので、何かいいお知恵等あれば、関係機関とも協力してできることはやっていきたい、というふうに考えております。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長

○副委員長（清水良一君） 環境課としては今何もしていないということですが、別の部署については何かやっているということはあるのでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 産業観光課長、牛島君。

○産業観光課長（牛島康博君） 父島ですけれども島内の宿泊施設に、実際にトコジラミが入ってしまったということで、これは観光協会の会報誌でも周知はされていると思いますけれども、あと、おがさわら丸でも少し見つかったということで、こちらについては島しょの保健所の方で対応しているということでございます。おがさわら丸につきましても一部の船室で見つかったということで、業者をお願いして、見つかった船室の周りを含めて処理をしております。また、来月にはドックがありますので、ドックの期間中重点的に処理をすると伺っております。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長

○副委員長（清水良一君） 環境課の方では前回もペットの条例とかいろいろな部分で新たな外来種を防ぐために色々な施策をされているということで、植物とか昆虫とかいろいろ聞かせてもらったんですが、そういった部分ではまだ何もやっておられないということでした。例えばオーストラリアやニュージーランドに行くときに観光客にアンケートを出されて、「熱がありますか」とか「何かに刺されたところがありますか」とか、何かチェック項目があったような気がするんですよ。こんなものを持ち込んでいませんかとか。そういったように、この部分は環境課、この部分は産業観光課、この部分は保健所、というのではなくて、まずはトータルで新たな外来種を防ぐ取り組みを今後とも考えていただければ

ばと思うのですが、その辺についてはどうでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、岡島君。

○環境課長（岡島一徳君） 新たな外来種の侵入につきましては、世界自然遺産の外来種対策の中でも大きな問題となっています。様々なところで検討を進めているところですが、引き続き何ができるかということはしっかり検討して、できることはやっていきたいと考えております。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

安藤重行委員。

○委員（安藤重行君） このトコジラミはあまり聞こうと思っていたわけではないのですが、保健所は対応をされているんですか。しているって言っていましたか、耳がちょっと聞こえていなかったもので。ごめんなさい。やはり環境衛生という所だと思うので、その辺が対応すべきかなと思います。

私11月22日に母島に行った時に、オガサワラシジミの会の方と話をした段階で、今年オガサワラシジミについては、かなり危機的状況ということで報告を受けていました。21日の希少植物保護増殖事業検討委員会の中でも餌になるものとかいろいろな問題が出たと思うんですけども、そういう中でそういう話はされているのでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、岡島君。

○環境課長（岡島一徳君） オガサワラシジミの餌植物の検討も含めまして、オガサワラシジミの保護増殖事業検討会という所で議論しております。

○委員長（一木重夫君） 安藤重行委員。

○委員（安藤重行君） 11月の時点で全然回復していないという話を聞いてきたので本当に困ったなということで、今後どういうふうになされていくのかなと思ったのでお聞きしました。それから先ほど有人島でネズミの対策ということで、ここに1、2、3、4ということで書いてあるのですが、2番目のところに「低減化で終わってしまえばいずれまた増えてしまう可能性がある」で終わっているんですが、これはこの後どういう検討をするとか、そういう問題をここに書かれるべきではなかったのかなと思います。可能性があるということではなくて、増えてしまうと言い切ってもいいのだと非常に思うのですけれども、その辺が何か中途半端かなと。ほかのところではネズミ対策は重要だとか、検討すべきだとか、協議する必要があるとか、いろいろ断定しているのですが、ここの部分だけが可能性があるで終わってしまっているの、これは何か意図的なことがあるのかお伺いしたい。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、岡島君。

○環境課長（岡島一徳君） こちらの文章の表現上、可能性があるに止まってしまっているのですが、全体の議論の流れとしましては、次の検討をするべきであるとか、協議する必要があるというご意見の流れの中のピックアップをさせていただいたということです。

○委員長（一木重夫君） 安藤重行委員。

○委員（安藤重行君） 母島ではイエネコ、ノラネコ、ノネコの3分で話をしてきたかと思えます。このイエネコとノラネコについては徹底した管理、蛇口を締めることが大事だということですずっと話し合われてきたと思うのですね。それでもまだこうやって増えているという状況があるのだとすれば、そこがまだ手が届いていないのかなと思うのですけれども、その辺についてはどういうふうな感じで考えられているのか教えていただきたい。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、岡島君。

○環境課長（岡島一徳君） 安藤委員のご指摘のとおり、イエネコからノラネコ化する状況は近年ないということで、供給源としてはきちんと対策は取られていると。ただ過去すでに外に出てしまって、山の方で繁殖してしまったネコが多くて、そちらの方を継続的に環境省の方で今捕獲しているんですけれども、なかなかすべて捕まえることができない、まだ先の見通しが立たない、そんな状況です。そんな中で、集落にもネコが出てくるような状況になっていて、先ほど申し上げたとおり、今環境省の方では、父島でまず完全排除を目指し、母島は希少鳥類の生息地を中心にしっかり守っていくと。取り組みが進めば母島でも拡充していきたいということですので、対策は引き続き行っていくということでございます。

○委員長（一木重夫君） 安藤重行委員。

○委員（安藤重行君） やはり根絶はなかなか難しいんだと思うのですが、今でもやっぱり母島の北進線、南進線に行くと時々子ネコが道路上にいるのが見受けられるのですね。そのように確実に増えているのがわかる状況になっている。ただ集落の方から上がってくる個体もいるので、やはり蛇口を締めないといけないのかなという感じがしていたものですから、その辺についてはもう少し徹底した対策が必要かなと思っています。これからまた検討会とか連絡会で協議されるんだと思いますけれども、よろしくお願いします。

続けて母島での世界遺産センターですけれども、これは分室とか支所を作るということでやる中で、環境省と東京都と村の職員が一か所に集まって対策を講じられるような場所にしていただけないかなと。環境省が今の世界遺産センターを作る前に、世界自然遺産が

登録される前の色々な話し合いの中で、母島は母島で対応していかないと難しいぞということで、母島にもこういうのを作っていただけないかということを書いてきたことがあったんですけども、なかなかできないという状況があったのですが、今やっということができそうな感じが出てきたということは大変ありがたいなと思うんですけども、その中で、また村と東京都と環境省が別々にやってしまうと、また村の負担というのがどんどん増えてしまうのではないかと心配しているわけです。最終的に地域でやるものだとということで、結構下に降ろしてくることが多いので、やはりそこを何とか防がないと、村の少ない職員の中で対応することはかなり大変だろうと思うので、そこは一体化したものを作っていただけないかなというふうに思います。その辺についてはいかがでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、岡島君。

○環境課長（岡島一徳君） 世界遺産センター、母島で作るときに一体化した拠点ということですかね、そういったものを作ったらどうか、ということですけども、おっしゃるとおり関係機関との連携というのは非常に重要だと思っております。その中で役割分担をしっかりと決めて進めていくことが重要ななと思っております。ただ一か所で職員が集まってとなると色々課題があると思っておりますので、関係機関とともにご相談しながら、どうしていくのがいいかということを検討されることになるかと考えています。

○委員長（一木重夫君） 安藤重行委員

○委員（安藤重行君） それ相応の負担とかいろんなことは、それは当然としてあるんだと思います。役割分担というのはさっき言われましたけれども、そういうのはあると思うんですが、ただ職員に負荷が来るような方法に、形になっていくのは非常に危惧しているんですね。とにかく職員が負担にならないようなやり方が、多分あるんだろうと思うので、その辺を村としてどう対応するかということも含めてもう少し煮詰めて考えていただきたいなと思うんですがいかがですか。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、岡島君。

○環境課長（岡島一徳君） 村の役割、また対応する業務というのがどんどん増えてきているというのも事実でございますので、やはり関係機関との連携という中でしっかり村の立場というものを考えて関係機関に示していく必要があるのかなと思っております。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

鯉江 満委員。

○委員（鯉江 満君） 別な面から、オニヒトデ。見かけるということなんです、これ具体

的にわかりますか。場所とか。また入った時の経緯とか、どういう形で入ったのかとか。何かわかることがあれば。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、岡島君。

○環境課長（岡島一徳君） まず場所ですけれども、二見港の海中公園地区に見られたということでございます。入ってきた経緯でございますが、こちらにつきましてははっきりとはわかっておりません。また確認されたのが二見港だけですけれども、その他にもあるかどうかということもまだ調査がされていないので、わからない状況です。

○委員長（一木重夫君） 鯨江 満委員。

○委員（鯨江 満君） これについてはいわゆる海洋レジャーに携わっている業者なり、ダイバーとかですね、そういう方たちにお触れを回してね、あれは当然捕獲するでしょう。今海中公園で見つかったものはそうしていますよね。そのままではないですよ。ですからそういう協力をして極力蔓延と言うか、広がらないように。初期の対応がすごく大事だと思うので、それを徹底するように何かやってもらった方がいいと思うのですが、いかがですか。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、岡島君。

○環境課長（岡島一徳君） 鯨江委員ご指摘のとおり、初期の対応は非常に重要なと思っております。実際環境省の方で駆除を進めておりますし、漁業協同組合の方とかダイバーの方、そういった方たちも自主的な取り組みをされていると聞いておりますので、今のところでしっかり対応を取っていくのが重要なと思っております。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎その他

○委員長（一木重夫君） 日程第3、その他事項で何かございますか。

質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎閉会中の継続調査について

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第4、本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りします。

お手元に配付の特定事件継続調査事項表の事項を調査するため、閉会中の継続調査の申し出をしたいと思えます。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認め、閉会中の継続調査を申し出ることと決定しました。

◎閉会の宣告

○委員長（一木重夫君） お諮りします。

本日の委員会はこの程度をもって終了したいと思えます。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これをもちまして総務委員会を閉会します。

お疲れさまでした。

（午前9時52分）